

講義&ワークショップ

「市民とコラボレーションする図書館を目指して」

講師：墨田区ひきふね図書館パートナーズ
北村 志麻

1 市民とコラボレーションしやすい行政

まずは、行政機関・行政職員が市民と協働しやすい土壌は必要となる。墨田区では条例にうたわれており、地域活動推進課といった専門部署もある。政治との連携も必要であり、議会の理解を得られたことで、図書館条例改正時に協働が盛り込まれた。行政側から、協働のしやすさをつくる必要がある。

2 市民と図書館のコラボレーション事例

「墨田区ひきふね図書館パートナーズ」の事例を紹介することで、コラボレーションの成功例を知ってもらう。これは、単なる友の会のような意見提案や単純作業のお手伝いボランティアではなく、利用者が事業の主体になる事例である。文部科学省が定義している「司書の主な職務内容」の6つの職務のうちの一つである「読書活動推進のための各種主催事業の企画、立案と実施」を担っている。このモデルは桐蔭横浜大学図書館や埼玉県志木市にも導入が広がっており、導入を検討する自治体には、パートナーズメンバー養成講座の提供ができるので、相談いただきたい。

3 市民から図書館員に望むこと

図書館・行政の常識と一般市民の常識は違うということを理解する必要がある。その上で、一般の人の持つスキルを備えてほしい。一般のビジネスパーソンが持つビジネススキル、例えばコミュニケーション力やロジカルシンキング力、柔軟性、発想力等を上げてもらいたい。

4 コミュニケーションワーク

まずは、自己紹介等でお互いを理解し合ってもらおう。また、ワークを通じて傾聴力やプレゼン力を身に付けてもらおう。

5 市民とともに図書館コミュニティをつくる

図書館におけるコミュニティとは、どういう

ものか。ワールドカフェによって理解を深めてもらう。他者との学び合いの中で、コミュニケーション力を上げつつ、思考を深めてもらう。

6 アイデア発想

3分間アイデアソンという強制発想法により、図書館におけるコミュニティと他のものとの掛け合わせ新しいアイデアを生み出す練習をしてもらう。そして、現状の苦境を打開できる、発想力を身に付けてもらう。



▲講義&ワークショップ